

各単元、各単位時間における指導と評価の工夫例

1 単元・小単元	第5章 消費社会を生きる
2 小単元の目標	消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。
3 本例における生徒の実態	<p>本校普通科では「家庭基礎」を1年生で2単位履修している。本校は進学校で勉強と部活動に一生懸命取り組んでいる。学校の雰囲気もとても落ち着いており、授業態度もよい。家庭環境にも恵まれ、家庭生活も比較的豊かだと感じる。</p> <p>私たちの消費生活が環境や社会情勢にかかわっているという事実は知っているようではあるが、生活経験が少ないため実践には結びつきにくく、実感も少ない。授業を通して、日々の消費行動を振り返り、じっくりと認識する体験が必要だと感じる。</p>
4 育てたい資質・能力	自らの消費行動が環境や社会に与える影響を理解し、公正で持続可能な社会の実現のために消費者として適切な意思決定ができるとともに、消費者の権利と責任を自覚した消費生活を送り、消費者市民社会の構築に積極的に参画しようとする意欲・態度を身に付けさせたい。

【参考文献】

- ・新家庭基礎21 実教出版
- ・新家庭基礎21 授業ガイダンス 実教出版
- ・生活学Navi 実教出版
- ・思わず伝えたくなる「消費者市民社会」の話 (公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

指導と評価の計画

【単元】5章 消費社会を生きる（消費生活）

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1.情報化・グローバル化する消費生活	○現在の消費生活の特徴を知り、さまざまな角度から考えることができる態度を養う。	・100円ショップ・スマホといった身近なものから現代の消費生活の問題に関心をもち。 ・情報を取り巻く状況を知り、的確な商品の選択に必要なことを考える。 ・経済の三主体と景気の動向が私たちの消費生活に及ぼす影響について理解する。	1	1. グローバル化を意識した消費生活について考えようとしている。			1. 消費生活を取り巻く現状（グローバル化）について理解している。	ワークシート
2.情報化と消費生活 3.広がる経済社会と消費生活	○消費生活の現状や家庭経済と社会の関わりを理解し、消費者として主体的に判断し行動する力を身につけさせる。	・家計の構成と貯金や保険、金融商品の特征について理解する。 ・働くことの意義を考え、多様な働き方があることを理解する。	1			1. 情報化・グローバル化によるメリットやデメリットについて話し合い、考えをまとめる。	2. 経済の三主体と景気の動向が私たちの消費生活に及ぼす影響について理解している。	ワークシート
4.収入と支出の管理 5.貯蓄・負債と家計管理	○家計の構成や実態、貯蓄や負債について理解させる。 ○働くことの意義を考えさせ、雇用形態とその特徴を理解させる。	・家計の構成と貯金や保険、金融商品の特征について理解する。 ・働くことの意義を考え、多様な働き方があることを理解する。	1		1. 職業に就き、働くことの意義と雇用形態について考えている。		3. 家計の構成と貯金や保険、金融商品の特征を理解している。 4. さまざまな雇用形態とその特徴を理解している。	ワークシート
6.契約と消費者信用	○契約や多様化する販売方法、支払方法を理解させる。 ○消費者信用の利用に必要な自己管理について考えさせる。	・契約や多様化する販売方法や支払方法について理解する。 ・クレジットカードの特徴と管理について理解する。	1		2. キャッシュレス社会の利便性と問題点を考えている。		5. 契約や多様化する販売方法、支払方法について理解している。 6. クレジットカードの特徴と管理について理解している。	ワークシート
7.電子商取引と問題商法	○消費者が巻き込まれやすいトラブルの現状認識と予防のための注意点について理解させる。	・電子商取引をめぐる問題と使用時の注意点を理解する。 ・問題となる商法の特徴を知り、被害者や加害者にならないための注意点を考える。	1		3. 問題となる商法の特徴を知り、被害者や加害者にならないための注意点を考えている。		7. 電子商取引をめぐる問題と使用時の注意点を理解している。	ワークシート

8.消費者の権利と救済のしくみ	○消費者被害の構造について理解し、被害にあった時に消費者被害救済のしくみを利用して対応できる力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> • 消費者の権利と責任の変遷を知る。 • 消費者には権利と責任があることを理解する。 • 消費者トラブルの解決法について理解し、その方法を身につける。 	1			2. 消費者をめぐるトラブルに直面した場合、社会的手段も利用しながらそれを解決する方法を身につけている。	8. 消費者被害救済のしくみを知り、トラブルの解決法について理解している。	ワークシート
9.意思決定の重要性と消費者の権利	○消費生活にかかわる意思決定が企業の活動や経済、地球環境等に影響を与えていることに気づかせる。	<ul style="list-style-type: none"> • 消費者の意思決定(自分の消費行動)が地域や環境、未来の世代の暮らしのあり方にも大きな影響を与えていることに気づく。 • 消費者運動や消費者市民社会を理解する。 	1				9. 消費者運動や消費者市民社会を理解している。	ワークシート
10.消費生活での環境と公正	○消費者市民社会の構築に積極的に参画しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> • 消費者市民社会でキーワードになりそうな(学習した)事柄を調べ、自分たちができることを考え、まとめる。 	1		4. キーワードやこれからの行動について考えを整理し、わかりやすくまとめている。			ワークシート 作品 行動観察
		<ul style="list-style-type: none"> • まとめたものを発表したり、他のグループの発表を聞き、消費者市民社会の実現に向けて考える。 	1		5. まとめたものを発表したり、他のグループの発表を聞き、これからの消費行動について考えている。		ワークシート 作品・発表 行動観察	
総時間数			9					

学習指導案

科目名	家庭基礎	使用教科書	新家庭基礎 2 1 (実教出版)
単元名	5章 消費社会を生きる		
本時の主題	10 消費生活での環境と公正 (9/9時間)		
指導観	<p>実体験が少ない中で、自分自身の生活の豊かさの向こう側にある社会・世界の現状を意識させ、自己の消費生活とのつながりを考えさせたい。それらを正しく理解したうえで、自分の生活の中で何をするのか、何ができるのかを考えさせ、行動することを課題とし、消費者の権利と責任を自覚した消費生活を送り、消費者市民社会の構築に積極的に参加しようとする意欲・態度を養いたい。</p>		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 消費者市民として持続可能な社会に貢献できるライフスタイルについて自己の生活と関連づけ、主体的にこれから必要な消費行動について考え、まとめたり発表したりする。 消費者市民社会の構築に積極的に参画しようとする態度を養う。 		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 3分	本時の学習内容と目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の確認と本時の学習内容と目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容と目標を確認させる。
展開 35分	消費生活での環境と公正	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> グループで、消費者市民として自分たちが現在の生活の中でできることなどについて話し合い、まとめたことを発表する。 </div> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> わが国は食料自給率が非常に低い。 地産地消で積極的に地元のものを購入するようにする。 環境負荷も少なく、地元の農業、日本の農業を盛り立て、食料自給率アップに貢献する。 	<p>評価基準【思・判・表】</p> <p>⑤ これからの消費行動についての考えを整理しわかりやすくまとめている。</p> <p>＜評価方法＞ 発表 (相互評価) 行動観察 ＜Aの例＞ 持続可能な社会の実現に向けて、何をすべきかを具体的にまとめて発表することができる。</p>
まとめ 12分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 他の班の発表を聞いて考えたことをまとめ、消費生活の向上とともに消費者の社会的責任や環境に対する自覚も求められていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容を伝える。

□工夫している点

- 発表準備をする中で、生活体験の少ない生徒でもより深い理解が得られると思われる。
- 表面的な知識だけでなく、1つのことを深く知ることにより、より深く考え、自分自身の生活を改善する行動につながると考えた。

□実践後の評価結果

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	取り上げた問題について、 理解し、消費者市民社会の 構築に参加しようとして いる。	取り上げた問題について、 自分の生活と関連させて理 解し、深く考えることがで き、消費者市民社会の構築 に積極的に参加しようとし ている。	消費者市民社会の構築 に参加しようとしてい る。
生徒の状況	今までの消費生活を振り 返り、消費者市民社会の一 員としてどのような生活 をしていきたいか表現し ている。	今までの消費生活を振り返 り、取り上げた問題等につ いての意見や感想、消費者 市民社会の一員としてどの ような生活をしていきたい か表現している。	消費者市民社会の一員 としてどのような生活 をしていきたいか表現 している。
記述例	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活の問題は知って いるだけで何もしてこ なかつた。学習を通し て、大きな問題であつた ことや自分たちへの関 わりや自分たちにでき ることなどを知ること ができた。今後、少しで も問題解決策を行って いきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 以前は自分のメリット(価 格やデザイン等)しか考 えていなかったが、学習 していく中で購入までの 過程やその商品が及ぼす 影響を考えることで、世 界中で起こっている問題 に少しでも貢献できると 分かり、今後意識してい きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から自分たちに できることはあるので 実践していきたい。

□授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> 2時間目にあたる研究授業は発表とまとめるのが中心で、発表以外の生徒の動きがなかつたため、キーワードの数を減らし、エキスパート活動やジグソー活動を取り入れるなどの工夫が必要であつた。 発表者を評価することと大事なことや気になることをメモするのを同時に行うのは難しかったと思われるのでメモをすることのみに集中させればよかつた。 発表の中でわからないこともあつたようで質問タイムがあるとより深めることができたと思われる。 ICT 機器の整備により今後はタブレットが入るなど、もっといろいろな可能性が広がるため、ICT の効果的な活用方法を引き続き考えていきたい。 授業で学んだ知識を実践へとつなげていく指導方法も考えていきたい。

)

5章 消費社会を生きる

10 消費生活での環境と公正

～消費者市民としての行動で社会を変える～

<これまでの学習のキーワード>

食品ロス 食料自給率 フードマイレージ 地産地消
フェアトレード 児童労働 バーチャルウォーター
エシカルファッション 持続可能な社会 紛争鉱物 など

<問題・課題把握>

- ・なぜそのことを取り上げたのか
- ・その事象に関する現在の情報・事実
- ・その事象に対する気持ち、思い
- ・その事象がなぜ「課題」「問題」となるのか

<解決方法・実践方法>

- ・具体的にどのように行動するのか
- ・少なくともグループ全員はできそうか
- ・それをすることで社会にどのように影響するのか
- ・どのような効果が得られるか

1. 消費者市民社会に向けての発表
＜別紙＞評価票を記入する

1.食品ロス

6.児童労働

2.食料自給率

7.バーチャルウォーター

3.フードマイレージ

8.エシカルファッション

4.地産地消

9.持続可能な社会

5.フェアトレード

10.紛争鉱物

2. 消費者の権利と責任から消費者市民社会を考える

消費者市民の 3要素	買う (選択・購入・支払)	使う (使用・評価)	捨てる (廃棄・再利用)
消費が持つ影 響力を理解し て行動する	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/>	
企業や行政に 相談したり 提案する	<input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/>	
他者への影響 を自覚して 行動する	<input type="text"/> <input type="text"/>		<input type="text"/> <input type="text"/>

公正で持続可能な
消費者市民社会の実現

まとめ

～発表等を聞き、消費者市民社会の一員としてどのように生活していきたいか～